Generational Changes of Sports in UbolRatchathani Province, Northeastern Thailand

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/359

タイ国東北部ウボンラーチャターニ県における スポーツの世代的変遷

佐 川 哲 也

Generational Changes of Sports in UbolRatchathani Province, Northeastern Thailand

Tetsuya SAGAWA

はじめに

タイ国東北部は「イーサーン」と呼ばれ，「面積，人口ともに全国の3分の1を占めるにもかかわらず，タイではその歴史的経緯と劣悪な稲作環境から貧困と無教養な田舎者の住む辺境地域というネガティブな意味を含むことが多い[4]」地域である。このイーサーンに位置するウボンラーチャターニ県を筆者がはじめて訪れたのは，1986年3月のことであった。ベトナム戦争時代にアメリカ軍の空爆基地として賑わいをみせたウボンラーチャターニ市は，当時自動車の数も少なく，市内を「サムロー」と呼ばれる自転車タクシーが静かに走る田舎町であった。この辺境の田舎町もバンコクの繁栄とともにわかに発展を遂げ，今日では国際空港が開港され，市内は自動車の排気ガスと騒音に悩まされる地方都市へと変貌を遂げつつある。

1988年に都市部，郡部，農村部の3地域の小学校5年生を対象として，スポーツの実施状況調査を行ったところ，農村部では数多くの伝統スポーツが確認された一方，都市部では伝統スポーツは確認されず，それに代わって近代スポーツを実施しているという結果を得た[10]。この論考は，伝統スポーツの数多くみられるウボンラーチャターニ県においてそのスポーツインベントリーを作成すること，さらにこのインベントリーを用いて調査票を作成し，子どもから高齢者を対象に調査することによって，ウボンラーチャターニ県で子どものスポーツ実施内容がどのように変容してきたかを明らかにすることを目指すものである。

I．タイ国の伝統スポーツに関する資料

タイ国の伝統スポーツに関する資料を概観すると次の4資料をリストアップできる。

①文部省体育局編（1982），伝統スポーツ事典，タイ語

② Anderson, W. W. (1980), Children's Play and Games in Rural Thailand, 英語

③ Umjuntorn, O. (1982), タイ民俗ゲームの特徴，タイ語

④ Gomaratut, C. et al., (1984), タイの伝統スポーツ，タイ語

これらの資料について，それぞれの文献の目的と伝統スポーツの収集方法と分類整理方法についてみていくことにする。

1．文部省体育局編，「伝統スポーツ事典」[2]

タイ国文部省体育局は1982（仏暦2525）年のラタナコーシン王朝200年，バンコク遷都200周年）を記念して「伝統スポーツ事典」を出版した。これは，同局が1937年に一度出版してあったものを復刻再出版したものと思われる[注1]。その前書きには，「タイ国伝統スポーツをタイ国全土の文化遺産として時代を担う人々のために残すことを目的とする」と書かれてある。この資料は，第二次世界大戦以前に収集されたものであり，おそらくタイの伝統スポーツを知る上で最も古い本格的な資料であり，極めて資料価値の高いものと評価できる。

平成7年9月18日受理

この事典には324種類646の伝統スポーツが収集されており，それぞれは，スポーツ名，収集県，由来，競技方法（遊び方），競い方，判定，季節，効果，道具の項目から構成されている。

2．Anderson, W. W.,「Children's Play and Games in Rural Thailand」[1)]

Andersonは，中部タイに位置するSamut Sakhon県のBan Klang村において，1969-70年に6か月間にわたる参与観察調査を行っている。その成果として69のゲーム（organized games）と32の遊戯（play activities）を収集し報告している。そして，この収集された資料と同村の経済文化的背景から，ゲームや遊戯が子どもたちに及ぼす文化化・社会化の影響について考察している。Andersonがゲームの収集整理に用いた項目は遊戯名，遊戯の年齢[注2)]，観察頻度，遊戯者の構成，最低遊戯可能人数，道具，遊び方，類似するタイ国内外の事例，行動分析，歴史的展望である。Andersonの収集した遊戯には，伝統スポーツのほか，お手玉や歌遊びといった非身体的遊戯も含まれている。

3．Umjuntorn, O.,「タイ民俗ゲームの特徴」[12)]

Umjuntornはタイ国北部，東北部，中部，南部の全国から文献資料に基づいて200の民俗ゲームを収集し，それらの特徴について分析を行っている。Umjuntornが分析に用いた民俗ゲームの特徴は，遊戯名，遊戯の行われる場所，遊戯に伴う歌の有無，道具，初歩的技術，遊戯に用いる絵柄，ルール，競争形態，機会である。Umjuntornが収集した民俗ゲームにはスポーツを含む身体的遊戯のほか，歌遊びや盤上ゲームなどの非身体的遊戯を念んでいる。その意味では，先にAndersonが収集した遊戯と同じ範疇で収集している。

4．Gomaratut, C. et al.,「タイの伝統スポーツ」[3)]

Gomaratutらは，タイの伝統スポーツについて，その起源，特徴，パターンから整理するとともに，その伝統スポーツの体育的価値について考察を行っている。分析に用いられた資料は文献資料に加えて80人に及ぶインタビュアーによって収集され，総数197種目について報告している。ちなみに北部43種目，東北部54種目，中部66種目，南部34種目である。また，伝統スポーツの整理に用いられた項目は，スポーツ名，由来，機会，プレーヤー，道具，場所，競技方法（遊び方），ルール，体育的価値である。さらに，Gomaratutらの資料には報告されたすべての遊びについての挿し絵が掲載されており，言葉だけでは表現できにくい伝統スポーツの解説には極めて有効な資料となっている。また，体育局が1930年代の伝統スポーツを本格的に収集したのに対して，この資料は1970-80年代の伝統スポーツの状況を知る上で歴史的価値を持った資料となっている。

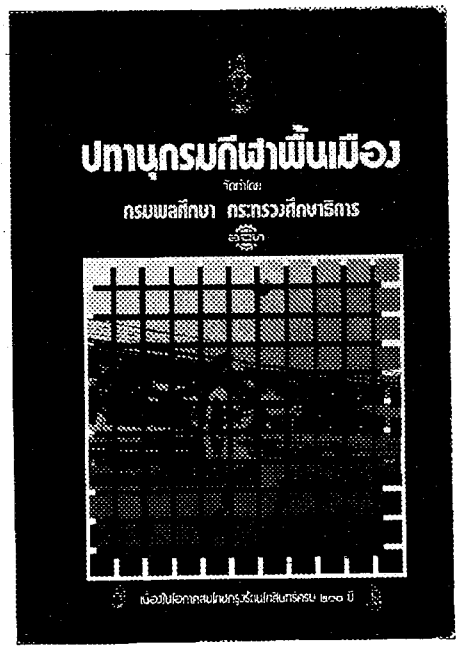

写真1　「伝統スポーツ事典」

5．その他

ここに取り上げた4つの資料以外にも伝統スポーツを紹介した英語文献や子どもたちを読者層として書かれた遊戯書などが数点ある[6),8),9),13)]。しかし，これらは説明が不十分であったり，現代風にアレンジされたものや新しい遊戯などがむしろ多く含まれており，伝統スポーツを把握する研究資料としては価値のないものとして取り扱った。

Ⅱ．タイ国におけるスポーツ概念

タイ語の「กีฬา [ki:la:]」という語はスポーツを意味するコトバである。パーリ語を語源とした「遊ぶ」という語義の「กีฬ」に由来するコトバで英語の「sport」とほぼ同義に使用されている。また，類語として「กรีฑา [kri:ta:]」というコトバがあるが，これはサンスクリット語に由来し，パーリ語の「กีฬา」と同じ語源をもっているとされている[11)]。しかし，現在のタイ語では，トラック競技とフィールド競技の両方を含む「陸上競技」を指して使用されている。

タイ語で「遊び」・「遊戯」に相当するコトバは「การละเล่น [ka:nlalên]」である。この語は動詞「เล่น [lên]」の名詞形で，動詞「เล่น」の語意は，「(趣味で，遊びで，気晴らしで) する，扱う，遊ぶ戯れる」で、次のように用いる[11)]。

①遊ぶ
②楽器を演奏する
③芝居を表演する
④スポーツする
⑤賭博をする
⑥趣味として何かに夢中になる
⑦飲食する
⑧振る舞う，やらかす，しでかす
⑨危害を加える
⑩～の方法を用いる
⑪仲間に加える

この「เล่น」というコトバは，英語の「play」に非常によく似ている。参考に英語「play」の語意を示すと次のようである[5)]。

①遊ぶ，遊戯をする，慰みごとをする，ふざける，戯れる
②もてあそぶ，いじくる，いい加減に扱う，馬鹿にする
③競技（プレー）する
④勝負事をする，賭博をする
⑤振る舞う，行う
⑥演奏する，芝居をする，演じる
⑦動物などが飛び回る，遊動する
⑧（機械の一部がある範囲用で）自由に動く
⑨砲を発射する，水や光などを放射する
⑩要求されたとおりに行動する

このようにタイ語の「เล่น」は英語の「play」と比較して分かるとおり，単に「遊ぶ」という意味に止まらず，むしろ「遊び」の本質にまで遡るような非常に広い概念をもったコトバとなっている。また，「เล่น」は次のようなことばを構成する。

ของเล่น [khŏŋlên] ＝おもちや（物＋遊ぶ）
ชื่เล่น [chû:lên] ＝ニックネーム（名前＋遊ぶ）
เดินเล่น [də:nlên] ＝散歩（歩く＋遊ぶ）
พูดเล่น [phû:tlên] ＝冗談を言う（話す＋遊ぶ）
ล้อเล่น [ló:lên]＝からかう（笑う＋遊ぶ）

先に示した4資料の収集対象となった活動について整理してみると，文部省体育局資料とGomaratutらの2資料は「伝統スポーツ（กีฬาพื้นเมือง [ki:la:phú:nmɯaŋ]）」を対象としているのに対して，Anderson資料とUmjuntorn資料は「ゲーム（games）及び遊戯（play）」をその対象としている。しかし，収集された活動を整理してみると，重複する活動が含まれており，「伝統スポーツ」と「ゲーム及び遊戯」概念を整理しておく必要がある。そこで収集された活動の特徴から概念整理をすると，「伝統スポーツ」として収集された活動は次のようである。

①比較的運動量のある身体運動を伴った活動で，座ったままで動かないような活動や手先だけで全身の運動を伴わないような活動は含まない。
②競争的要素を含んだ活動である。

③種目特有のルールをもった活動である。

一方,「ゲーム及び遊戯」として収集された活動は以下のようである。

①身体運動を伴う活動と歌遊びや座ったままので行う活動を含んでいる。

②互いに競い合うゲームのほか，一緒に楽しむことを旨とした競争的要素を含まない活動を含んでいる。

③必ずしもルールの確立をみない活動も含んでいる。

このように収集された活動から「กีฬา」が範疇とする活動を吟味してみると,「全身的な身体運動を伴った活動で，競争的要素をもち，しかもルールのある活動」とまとめることができる。本論考では，タイ語の「กีฬา」が規定するところの活動を対象として考察を進めていくこととした。したがって，一般には「近代スポーツ」を指して単に「スポーツ」と用いることがあるけれども，この論考の中で「スポーツ」というコトバを用いる場合には，単に近代のスポーツのみを指すのではなく，タイ語の「กีฬา」が意味するところの伝統的なスポーツをも含むようなより広い概念として使用することにする。例えば，この広い意味での「スポーツ」概念には,「鬼ごっこ」や「なわ跳び」,「かくれんぼ」や「ハンカチ落とし」のような活動を含んでいる。

Ⅲ．スポーツインベントリーの作成

ウボンラーチャターニ県におけるスポーツを整理するために，文献資料によってスポーツを選定した。選定には先に示した4資料のうち，文部省体育局資料とGomaratutらによる資料の2つを用いた。文部省体育局資料では，収集された伝統スポーツごとに県名が記載されており，ウボンラーチャターニ県を中心とした東北部の県で収集されたスポーツをリストアップした。また，Gomaratutらによる資料では，東北部で収集されている54種目の伝統スポーツすべてを採用した。加えて，筆者が1986年から89年の間にウボンラーチャターニ県で観察調査によって収集した近代スポーツを含むスポーツ種目をこれに加えて，総計95種目からなるスポーツインベントリーを作成した。この95種目から予備調査票を作成し，筆者が1990年6月から1991年2月の間のタイ国滞在中に，小学校時代をウボンラーチャターニ県で過ごした10歳から64歳の県民を対象に調査を実施した。この結果を踏まえて，実施頻度の低かったスポーツ種目をリストから削除した後，改めて72種目からなるウボンラーチャターニ県のスポーツインベントリーを作成した。この論考では，先の予備調査の結果と1991年9月に農村部の小学校高学年生を対象に再調査したものを合わせて資料として用いる。2回の調査の標本数の合計は104名で年齢は10歳から64歳の男女である。男子が57名，女子は47名である。分析にあたっては，標本数があまり多くないこと，年齢層が多岐にわたっていることを考慮して，標本全体を3グループに分類した。すなわち，10～13歳，15～29歳，30～64歳であり，これらの世代は小学校高学年時代をそれぞれ1990年頃，1970～85年頃，1940～1970年頃に過ごした世代である。調査はリストアップされたスポーツのそれぞれに対して「よく遊んだ」,「少し遊んだ」,「遊んだことがない」の3者択一の質問を課した。

作成されたスポーツインベントリーは次の72種目である。ここでは，スポーツ内容が分かりやすいように日本語に訳した[注3)]。

1．กระโดดเชือก [kradotchûak]　なわ跳び
2．กระโดดยาง [kradotya:ŋ]　ゴム跳び
3．กระต่ายขาเดียว [kratà:ikhǎ:dìao]　片足うさぎ
4．กาฟักไข่ [ka:fákkhài]　カーファッカイ
5．ขี่ควาย [khì:khua:i]　水牛乗り
6．ขี่จักรยาน [khì:cakraya:n]　自転車乗り
7．ขี่ม้าฟันดาบ [khì:má:fandà:p]　騎馬戦
8．ขี่ม่าหลังโปก [khì:má:lǎŋpò:k] 馬の背の石ころ投げ
9．ขี้หนอน [khî:nǒ:n] 芋虫の糞
10．ขาโถกเถก [khǎ:thò:kthè:k]　竹馬
11．แข่งเต่า [khè:ŋtào]　亀競争

12. ค้ำส้าว　[khì:khua:i]　棒押し
13. โคเกวียน　[kho:kwian]　牛車レース
14. งอ　[ŋo]　ゴー
15. งูกินหาง　[ŋu:kinhǎ:ŋ]　蛇のしっぽ
16. จระเข้กินคน [crakhê:kinkhon]　人喰いワニ
17. ชักเย่อ　[chákyə̂:]　綱引き
18. ชิงเชลย [chiŋchalə:i]　捕虜奪い
19. ชิงหลัก [chiŋlàk]　陣取り
20. ดึงหนัง [dɯŋnǎŋ]　皮引き
21. ต่อไก่　[tɔ̀:kài]　鶏壊い
22. ตะกร้อ　[takrɔ́:]　タクロー
23. ตาโม่ง　[ta:mɔ̂:ŋ]　目隠し鬼
24. ตำรวจไล่จับโจร　[tamrùatlâicàpco:n]　警察と泥棒
25. ตีไก่　[ti:kài]　闘鶏ごっこ
26. ตีคลี　[ti:khli:]　ホッケー
27. ตีจับ　[tì:càp]　ティーチャップ
28. เต้นข้ามขา [têŋkhâ:mkhǎ:]　足跨ぎ
29. เต้นจ่างจะ [têncà:ŋca]　チャンチャ跳び
30. เตย　[tə:i]　タゥーイ
31. ไถนา　[thaina:]　鋤車
32. นาฬิกา　[na:lika:]　ナリカー
33. บักลี้　[bàklí:]　かくれんぼ
34. บินทะรูด　[bi:ntharû:t]　棒登り
35. ปิงปอง　[piŋpɔŋ]　卓球
36. เปาขาง　[páoya:ŋ]　輪ゴム吹き
37. พุ่งกระสวย　[phûŋkrasŭai]　梭ごっこ
38. ฟ้อนเชิง [fɔ́nchəŋ]　剣試合ごっこ
39. ฟุตบอล [futbɔ:n]　サッカー
40. มวย　[muai]　ムアイ
41. มอญซ่อนผ้า　[mɔnsɔ̂:nphâ:] モンさんのハンカチ
42. แม่เจ้าเมือง [mê:câomɯaŋ]　石蹴り
43. แมวกับปลาขาง　[mɛukinpla:ya:ŋ]　猫と焼き魚
44. ไม้โบ่ง [máipô:ŋ]　マイポーン
45. ไม้หึ่ง [máihùɯ]　弾き棒
46. แข้งลรู [yé:loŋru:]　穴引き
47. โยนพลอง [yo:nphloŋ]　棒送り
48. โยนห่วง [yo:nwòŋ]　輪投げ
49. โยนให้รับจับให้ปา　[yo:nhâirápcàphâipa:]　捕ってみろ投げてみろ
50. รีรีข้าวสาร　[ri:ri:khâ:usǎ:n]　とおりゃんせ
51. ลิงเกี่ยลูก　[liŋkiyalû:k] 親子ざる競争
52. ลิงชิงหาง　[liŋchiŋhǎ:ŋ]　サルの尻尾捕り
53. ลูกข่าง　[lû:kkhà:ŋ] 独楽
54. ลูกโปง　[lû:kpo:ŋ]　ゴム風船遊び
55. โล่งโค้งกงเกวียน　[lô:ŋkhó:ŋkoŋkwian]　牛車輪ごっこ
56. ไล่จับ　[lâicàp] 鬼ごっこ
57. วอลเลย์บอล　[vɔ:le:bɔ:n] バレーボール
58. วัวต่าง [wuatà:ŋ]　荷牛競争
59. ว่ายน้ำ　[wâ:iná:m]　水泳
60. ว่าว　[wâ:u]　凧上げ
61. วิ่งเล่น　[wî:ŋlên]　かけっこ
62. วิ่งเปรี้ยว　[wî:ŋprî:u]　プリウ
63. วิ่งสามขา　[wî:ŋsǎ:mkhǎa] 足掛け跳び
64. สะบ้า　[sabâ:]　サバー
65. เสือกินวัว　[sɯ̂akinwua]　虎と牛
66. หนังสติก　[nǎŋsatik] ゴム銃
67. หมากเก็บ [mà:kkèp]　お手玉
68. หมากข่าง [mà:kkhà:ŋ]　駒遊び
69. หมากดึง　[mà:kdɯŋ]　引き鬼
70. หลักควาย [làkkhua:i]　水牛の杭遊び
71. หิงหลุม　[hǐŋlǔm] 石穴
72. หิงอี่　[hǐŋì:] イー網

Ⅳ．世代別にみたスポーツ経験率の変化

表1，2はスポーツ経験率の変化を世代別にみたものである。数値は「よく遊んだ」に「少し遊んだ」を加えたスポーツの経験者の割合である。最大値は1.00で，回答者の全員がスポーツ経験のあることを示している。表中には0.70以上を掲載した。また，0.80のところに点線を引いた。

男子では，30-64歳及び15-29歳の世代でともに32種目が0.70以上を示したのに対して，10-13歳の世代では，0.70以上は15種目と半数以下に減少した。8割以上を示した種目についてみても，30-64歳及び15-29歳の世代ではともに20種目であるのに対して，10-13歳の世代では，わずかに8種目となっている。全員がスポーツ経験のある種目に注目してみると30-64歳の世代で

は5種目，15-29歳の世代では2種目，10-13歳の世代では0種目という結果であった。つまり，1990年代の小学校高学年生男子は，それ以前の世代と比較してスポーツ経験率が減少していることを示している。

女子の7割以上が経験ありと回答したスポーツ種目は，30-64歳の世代で27種目，15-29歳の世代で28種目と両世代間に大きな差はみられない。しかし，10-13歳では17種目と減少しており，男子と同様の傾向である。8割以上の種目数をみると，30-64歳の世代から順にそれぞれ19，21，14種目となっており，10-13歳の世代だけが低い値を示した。また，全員が経験ありと回答した種目の数も30-64歳の世代が6種目，15-29歳の世代が4種目であるのに対して，10-13歳の世代はわずかに1種目である。女子についても男子と同様の結果である。すなわち1990年代の小学校高学年生女子は，先の世代と比較してスポーツ実施率が大きく減少する傾向にある。

V．スポーツ内容の変容

スポーツ内容の変化は特定スポーツ種目の実施率の変化として捉えることができる。10-13歳の世代で8割以上を示した8種目のうち，「か

表1　スポーツ経験率の変化（男子）

10-13歳	16人	15-29歳	17人	30-64歳	24人
＊タクロー	0.95	とおりゃんせ	1.00	凧上げ	1.00
かけっこ	0.95	モンさんのハンカチ	1.00	かけっこ	1.00
＊サッカー	0.90	凧上げ	0.94	なわ跳び	1.00
自転車	0.90	輪ゴム吹き	0.94	蛇のしっぽ	1.00
＊ムアイタイ	0.90	なわ跳び	0.94	水泳	1.00
＊バレーボール	0.85	蛇のしっぽ	0.94	＊サッカー	0.92
＊卓球	0.85	プリウ	0.88	自転車	0.92
タゥーイ	0.80	かけっこ	0.88	竹馬	0.92
水牛乗り	0.75	ゴム銃	0.88	モンさんのハンカチ	0.92
ゴム銃	0.75	鬼ごっこ	0.88	とおりゃんせ	0.92
水泳	0.75	かくれんぼ	0.88	輪ゴム吹き	0.88
綱引き	0.75	足跨ぎ	0.88	ゴム銃	0.88
チャンチャ跳び	0.70	警察と泥棒	0.88	＊タクロー	0.88
ナリカー	0.70	＊卓球	0.88	＊ムアイタイ	0.88
警察と泥棒	0.70	＊サッカー	0.82	綱引き	0.88
		＊バレーボール	0.82	かくれんぼ	0.83
		水泳	0.82	石蹴り	0.83
		ゴム風船遊び	0.82	水牛乗り	0.83
		＊タクロー	0.82	足跨ぎ	0.83
		綱引き	0.82	輪投げ	0.83
		ゴム跳び	0.76	タゥーイ	0.79
		タゥーイ	0.76	サバー	0.79
		剣試合ごっこ	0.76	プリウ	0.75
		輪投げ	0.76	警察と泥棒	0.75
		自転車	0.76	＊卓球	0.75
		虎と牛	0.76	＊ホッケー	0.75
		陣取り	0.76	足掛け跳び	0.75
		＊ムアイタイ	0.76	ティーチャップ	0.71
		足掛け跳び	0.76	ゴム跳び	0.71
		猫と焼き魚	0.71	弾き棒	0.71
		お手玉	0.71	鶏追い	0.71
		ティーチャップ	0.71	独楽	0.71

＊印は近代スポーツを示す。

けっこ」，「自転車」，「タゥーイ」を除く５種目の近代スポーツについて先の世代と実施率の比較を試みた（表３）。すなわち「タクロー」，「サッカー」，「ムアイタイ」，「バレーボール」，「卓球」の５種目は近代スポーツと呼ぶことができる。このうち「タクロー」は伝統スポーツとすることも可能ではあるが，1965年に「アジアセパタクロー連盟」が発足してより，東南アジア地域を中心に急速に普及拡大を果たしたスポーツであり，タイ国内ではテレビ放映の機会も多く，近代スポーツとすることに大きな異論はないものと思われる。また，「ムアイタイ」は「タイ式ボクシング」と呼ばれるとおり，タイ国を代表する伝統スポーツであるが，既に国際化を果たしており，ここでは近代スポーツと見なすこととした。こうして10-13歳の世代のスポーツ内容を見ると全体に占める近代スポーツの割合が高いと見える。つまり，1990年代の小学校高学年生のスポーツ内容の多くは近代スポーツであり，伝統スポーツの実施率は低いといえよう。図１に示すとおり，これらの近代スポーツ５種目は，30-64歳の世代で「バレーボール」が0.63とやや低い数値を示したものの，10-13歳，15-29歳，30-64歳の各世代間に大きな差はないといえよう。つまり，男子に限っては，近代スポーツは30-64歳の世代から既にウボンラーチャターニ県では親しまれていたと推論できよう。

1988年に実施した調査結果では，近代スポーツは都市部に多くみられるものの農村部での実施率は低く，あたかも近代スポーツが今まさに

表２　スポーツ経験率の変化（女子）

10-13歳	20人	15-29歳	15人	30-64歳	11人
自転車	1.00	モンさんのハンカチ	1.00	かけっこ	1.00
卓球	0.94	ゴム跳び	1.00	なわ跳び	1.00
タゥーイ	0.88	鬼ごっこ	1.00	蛇のしっぽ	1.00
蛇のしっぽ	0.88	輪投げ	1.00	モンさんのハンカチ	1.00
ナリカー	0.88	石蹴り	0.93	プリウ	1.00
ゴム風船遊び	0.88	輪ゴム吹き	0.93	輪投げ	1.00
モンさんのハンカチ	0.88	とおりゃんせ	0.93	輪ゴム吹き	0.91
バレーボール	0.81	なわ跳び	0.93	とおりゃんせ	0.91
鬼ごっこ	0.81	綱引き	0.93	片足うさぎ	0.91
チャンチャ跳び	0.81	自転車	0.87	お手玉	0.91
輪ゴム吹き	0.81	虎と牛	0.87	ティーチャップ	0.91
猫と焼き魚	0.81	警察と泥棒	0.87	綱引き	0.91
とおりゃんせ	0.81	片足うさぎ	0.87	警察と泥棒	0.91
ゴム跳び	0.81	凧上げ	0.87	凧上げ	0.91
警察と泥棒	0.75	ゴム銃	0.87	サバー	0.91
虎と牛	0.75	* 卓球	0.80	自転車	0.82
竹馬	0.75	プリウ	0.80	石蹴り	0.82
		足跨ぎ	0.80	鬼ごっこ	0.82
		タゥーイ	0.80	ゴム跳び	0.82
		猫と焼き魚	0.80	かくれんぼ	0.73
		* サッカー	0.80	足跨ぎ	0.73
		かくれんぼ	0.73	* 卓球	0.73
		陣取り	0.73	足掛け跳び	0.73
		足掛け跳び	0.73	陣取り	0.73
		* バレーボール	0.73	竹馬	0.73
		人喰いワニ	0.73	ゴム銃	0.73
		独楽	0.73	馬の背の石ころ投げ	0.73
		かけっこ	0.73		

＊印は近代スポーツを示す。

表3　「近代スポーツ」経験率の変化（男子）

10-13歳		15-29歳		30-64歳	
タクロー	0.95	卓球	0.88	サッカー	0.92
サッカー	0.90	サッカー	0.82	タクロー	0.88
ムアイタイ	0.90	バレーボール	0.82	ムアイタイ	0.88
バレーボール	0.85	タクロー	0.82	卓球	0.75
卓球	0.85	ムアイタイ	0.76	バレーボール	0.63

都市部から農村部へと拡大しつつあることを示唆しているかのようであった。この時の調査では小学校高学年生のみを対象として調査を行っており，成人に対しては調査をしなかった。そのため，ウボンラーチャターニ県では近代スポーツの多くが伝播の途上であるという思いこみをしてしまっていたようである。近代スポーツがいつ頃タイ国東北部に普及したかについての報告はなく，目下のところ不明である。今回の調査では，30-64歳というあまりに広い世代設定ではあるものの，1940-70年頃には既にこれらの近代スポーツが伝播していたということを推論できる結果であった。1988年の調査結果を参考に加えるとしても，いつの時代に近代スポーツが東北タイ農村の隅々まで伝播していったのか，資料不足のために依然不明である。

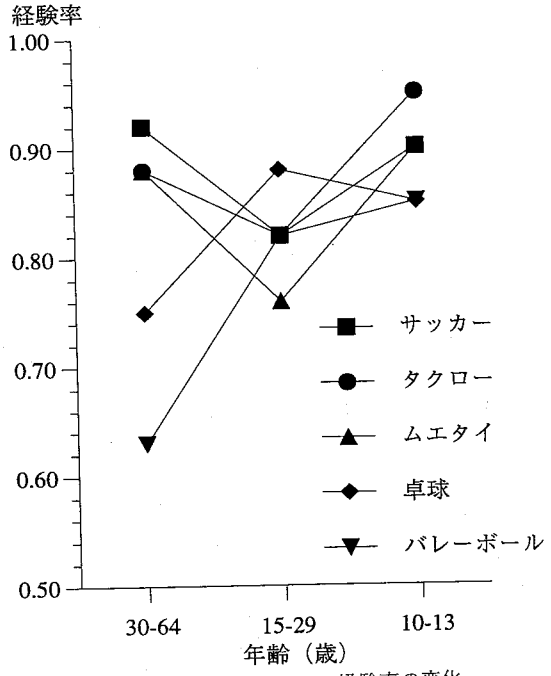

図1　「近代スポーツ」経験率の変化

女子の近代スポーツ実施率はどの世代も極めて低く，男子の間には一般的であったスポーツも女子の間には普及しておらず，女子が近代スポーツをする時代はまだ到来していないと言えるのではなかろうか。東北タイでは近代スポーツ実施に男女差が認められたことは特筆すべきことである。このことは，近代スポーツに触れる年齢を考慮してみないとさらに深い考察をすることができないように思われる。

次に，10-13歳では値の低かった伝統スポーツについてみることにする。男子の30-64歳の世代で8割以上の高い値を示した15種目について実施率の変化を示したのが表4である。図2はそのうち上位の7種目についてのみグラフ化したものである。「かけっこ」を除く6種目，すなわち，「凧上げ」，「なわ跳び」，「蛇のしっぽ」，「竹馬」，「モンさんのハンカチ」，「とおりゃんせ」は10-13歳の世代で顕著に低い値を示した。また，「竹馬」は15-29歳の世代で既にやや低い値を示している。これは他の種目が15-29歳の世代でも30-64歳の世代とほとんど変わらない数値を示していることと比べて，既に「竹馬」がいち早く実施されなくなりつつあったことを示している。以上の結果から，1990年代の小学校高学年生男子たちはかつての世代と比較して著しく伝統スポーツをしない傾向にあるといえる。

女子の伝統スポーツの実施率については，30-64歳の世代で8割以上を示した18の種目に

ついて検討することとした(表5)。また，全員が実施していたと回答のあった6種目については図3にその変化の様子を示した。「モンさんのハンカチ」は30-64歳及び15-29歳の世代ではともに全員が経験していたが，10-13歳の世代ではやや減の0.88となった。「輪投げ」は「モンさんのハンカチ」同様30-64歳及び15-29歳の世代でともに1.00を示したが，10-13歳の世代では6割以上が非実施の0.38と大きく値が下がった。「蛇のしっぽ」は10-29歳で0.60といったん減に転じ

表4　「伝統スポーツ」経験率の変化（男子）

10-13歳	16人	15-29歳	17人	30-64歳	24人
かけっこ	0.95	とおりゃんせ	1.00	凧上げ	1.00
水牛乗り	0.75	モンさんのハンカチ	1.00	かけっこ	1.00
ゴム銃	0.75	凧上げ	0.94	なわ跳び	1.00
綱引き	0.75	輪ゴム吹き	0.94	蛇のしっぽ	1.00
輪ゴム吹き	0.60	なわ跳び	0.94	竹馬	0.92
モンさんのハンカチ	0.60	蛇のしっぽ	0.94	モンさんのハンカチ	0.92
とおりゃんせ	0.55	かけっこ	0.88	とおりゃんせ	0.92
なわ跳び	0.55	ゴム銃	0.88	輪ゴム吹き	0.88
竹馬	0.40	かくれんぼ	0.88	ゴム銃	0.88
蛇のしっぽ	0.35	足跨ぎ	0.88	綱引き	0.88
かくれんぼ	0.35	綱引き	0.82	かくれんぼ	0.83
足跨ぎ	0.35	輪投げ	0.76	石蹴り	0.83
凧上げ	0.30	竹馬	0.65	水牛乗り	0.83
石蹴り	0.30	石蹴り	0.65	足跨ぎ	0.83
輪投げ	0.25	水牛乗り	0.53	輪投げ	0.83

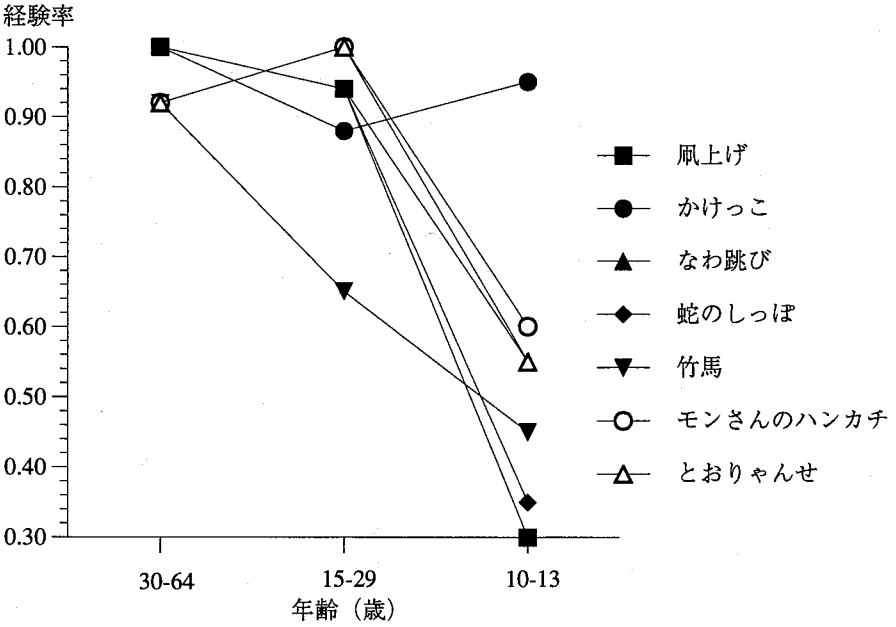

図2　「伝統スポーツ」経験率の変化（男子）

表５　「伝統スポーツ」経験率の変化（女子）

10-13歳	20人	15-29歳	15人	30-64歳	11人
蛇のしっぽ	0.88	モンさんのハンカチ	1.00	かけっこ	1.00
モンさんのハンカチ	0.88	ゴム跳び	1.00	なわ跳び	1.00
鬼ごっこ	0.81	鬼ごっこ	1.00	蛇のしっぽ	1.00
輪ゴム吹き	0.81	輪投げ	1.00	モンさんのハンカチ	1.00
とおりゃんせ	0.81	石蹴り	0.93	プリウ	1.00
ゴム跳び	0.81	輪ゴム吹き	0.93	輪投げ	1.00
警察と泥棒	0.75	とおりゃんせ	0.93	輪ゴム吹き	0.91
かけっこ	0.69	なわ跳び	0.93	とおりゃんせ	0.91
綱引き	0.63	綱引き	0.93	片足うさぎ	0.91
プリウ	0.63	警察と泥棒	0.87	お手玉	0.91
なわ跳び	0.56	片足うさぎ	0.87	ティーチャップ	0.91
凧上げ	0.50	凧上げ	0.87	綱引き	0.91
片足うさぎ	0.56	プリウ	0.80	警察と泥棒	0.91
石蹴り	0.44	かけっこ	0.73	凧上げ	0.91
お手玉	0.44	お手玉	0.67	サバー	0.91
輪投げ	0.38	ティーチャップ	0.60	石蹴り	0.82
サバー	0.31	蛇のしっぽ	0.60	鬼ごっこ	0.82
ティーチャップ	0.25	サバー	0.47	ゴム跳び	0.82

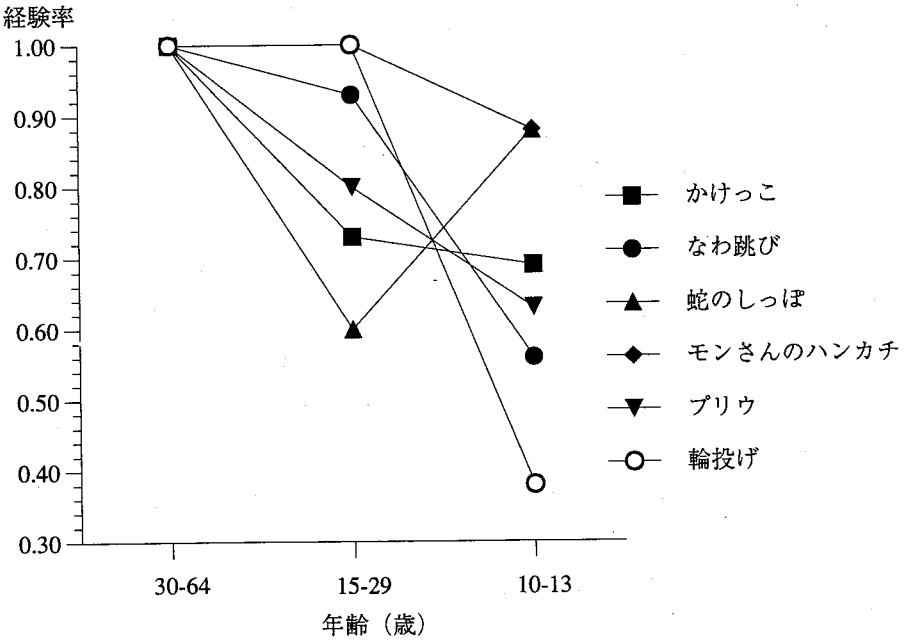

図３　「伝統スポーツ」経験率の変化（女子）

たが，10-13歳で再び0.88と増加している。「なわ跳び」，「プリウ」，「かけっこ」は時代とともに低下する傾向にある。総じて女子の伝統スポーツの実施率も男子同様，時代とともに実施者が減少する傾向にある。

スポーツの内容的変化を総括すると次のようであった。

①伝統スポーツは，男女とも時代とともに実施されなくなり，その結果経験スポーツ数の大幅な減少を引き起こしている。

②近代スポーツは，男子では世代間に余り大差なく実施されていたが，女子では1990年時点では未だ実施する機会を得ていない。

Ⅵ．スポーツ経験の男女差

スポーツ経験は男女でどのように異なるのであろうか。スポーツ経験の男女差を男女のスポーツ経験率の違いに注目して分析を試みた。図4は男女のスポーツ経験率の分布を30-64歳の世代の「よく遊んだ」と回答したものについてグラフ化したものである。30-64歳の世代は先に示したとおり，近代スポーツと伝統スポーツ両方の種目数が多く，「よく遊んだ」と回答した割合も高いので，すスポーツ経験の男女差を検討するのに最もよい資料と考えられる[注4)]。図は横軸が男子の経験率の割合，縦軸が男女の経験率の判合である。原点に近いほど経験率が低く，原点からの距離が遠いほど経験率が高い。また，

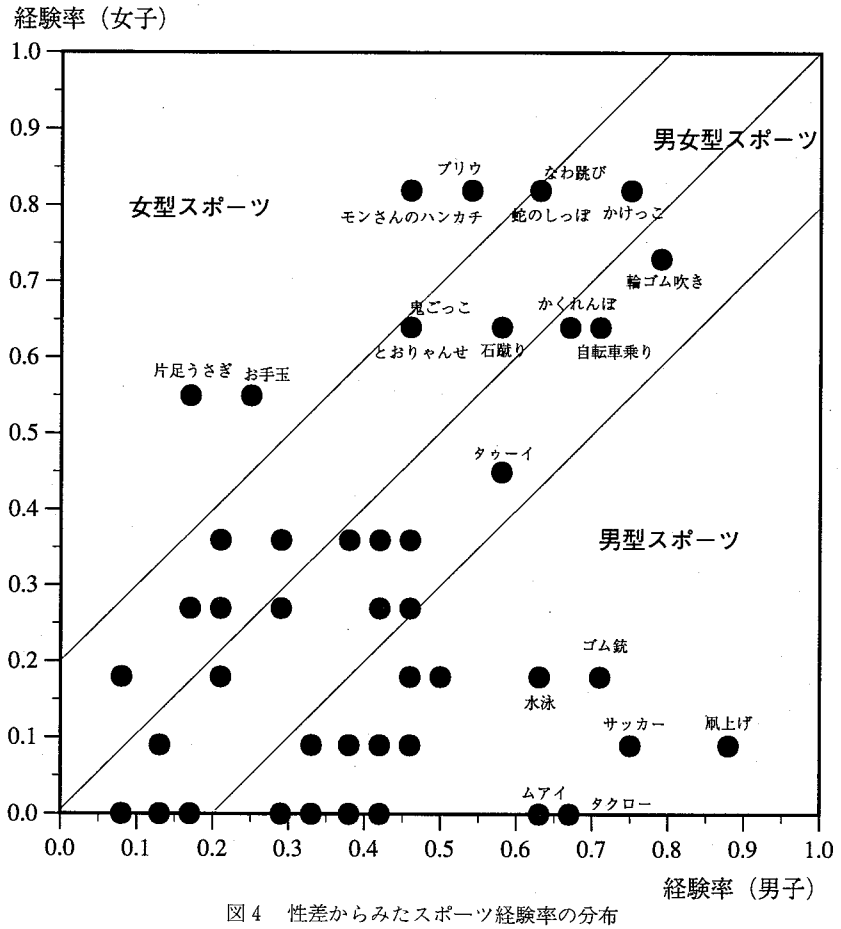

図4　性差からみたスポーツ経験率の分布

原点を通る直線上は男子と女子の経験率が等しい点であり，対角線からの距離が遠いほど一方の性へ経験率が偏っていることを示している。本分析では，男女の経験率0.20を基準として布置されるスポーツを次の3つに分類した。すなわち，男子の経験率が0.20以上で女子のそれを上回るスポーツを「男型スポーツ」，逆に女子が男子を0.20以上上回るスポーツを「女型スポーツ」と仮定した。また，男女の差が0.20以内のスポーツは「男女型スポーツ」と仮定した。図中では「男型スポーツ」は右下に，「女型スポーツ」は左上に，また「男女型スポーツ」は対角線周辺に位置する。なお，「男女型スポーツ」に布置されるスポーツの内で，男女どちらかの値が0.30を越えない種目は「消極的スポーツ」とした。

「男型スポーツ」と分類されたスポーツは20種目で，男子の経験率0.50以上の種目は「凧上げ」，「タクロー」，「サッカー」，「ムアイ」，「ゴム銃」，「水泳」，「竹馬」の7種目であった。このうち「タクロー」と「ムアイ」は30-64歳の世代では女子で「よく遊んだ」と回答した者がなく，男子のみに支配的なスポーツとなっていた。概して「男型のスポーツ」に分類された種目は，男子がかなり高い値を示す一方で女子が非常に低い値を示す傾向にある。図5は「男型スポーツ」に分類された7種目について「よく遊んだ」と回答した者の割合を世代別にプロットし，30-64歳を起点として15-29歳，10-13歳を順に結んで，その世代間の変化を示したものである。その結果，3世代とも「男型スポーツ」として布置された種目は「サッカー」と「タクロー」の2種目のみであった。また「竹馬」は15-29歳で「男女型スポーツ」に布置された後「消極型スポーツ」に，「ムアイ」は15-29歳の世代で「消極型スポーツ」に，「凧上げ」，「水泳」，「ゴム銃」の3種目は，10-13歳の世代になって「消極型スポーツ」に布置された。7種目共通の特徴としては，15-29歳の世代で男子の経験率がやや低下する一方で女子の経験率がやや上昇し，10-13歳

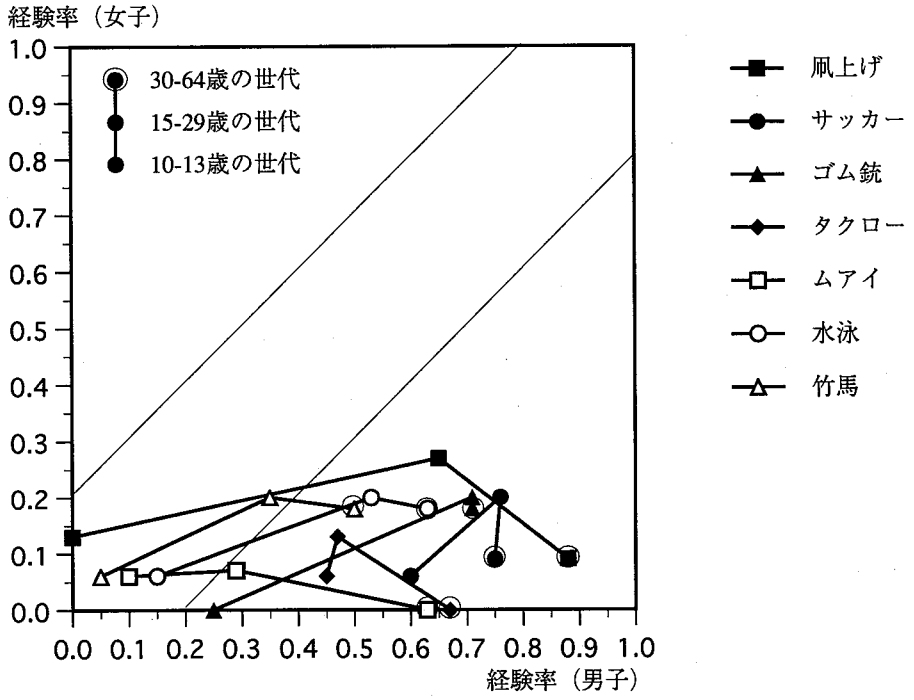

図5　「男型スポーツ」の世代的推移

の世代では男子の経験率が大きく低下して「消極型スポーツ」に布置される種目と，低下の幅が少なく「男型スポーツ」に止まっている2つのタイプがみられた。

「女型スポーツ」と分類されたスポーツは「モンさんのハンカチ」，「プリウ」，「片足うさぎ」，「お手玉」のわずか4種目であった。このうち，男子の経験率は「モンさんのハンカチ」と「プリウ」では中程度で，「片足うさぎ」と「お手玉」は低い値を示した。図6は世代の推移を示したものである。15-29歳の世代に注目すると「プリウ」，「片足うさぎ」，「お手玉」は男子の経験率が一時的に高くなった。特に，「プリウ」は男子の経験率が女子のそれを上回って「男型スポーツ」に位置した。「片足うさぎ」と「お手玉」は「男女型スポーツ」に位置した。15-29歳の世代で「女型スポーツ」に止まったのは「モンさんのハンカチ」のみである。10-13歳の世代では4種目とも男女の経験率が低くなって「消極型スポーツ」に位置する結果であった。

「男女型スポーツ」に分類されたスポーツは48種目であり，男女のどちらかが経験率0.50以上を示した種目は，「かけっこ」，「輪ゴム吹き」，「なわ跳び」，「蛇のしっぽ」，「自転車乗り」，「かくれんぼ」，「石蹴り」，「鬼ごっこ」，「とおりゃんせ」，「タゥーイ」の10種目であった。その他の種目は経験率が男女ともに低く，「消極型スポーツ」として扱った。図7は「男女型スポーツ」に位置した10種目の3世代にわたる推移を示したものである。10種目ともに共通して言えることは，「男型スポーツ」及び「女型スポーツ」に共通していることだが，世代が新しくなるとともに経験率が総じて低下し，10-13歳の世代では多くの種目が「消極型スポーツ」に位置することである。10-13歳の世代で「消極型スポーツ」に位置した種目は10種目中8種目に及んだ。「かけっこ」と「蛇のしっぽ」は15-29歳の世代で経験率が0になり，「男型スポーツ」に位置した。「かけっこ」は10-13歳の世代で男女の値が大きく低下したが，男子の値が0.30を越えたので「男

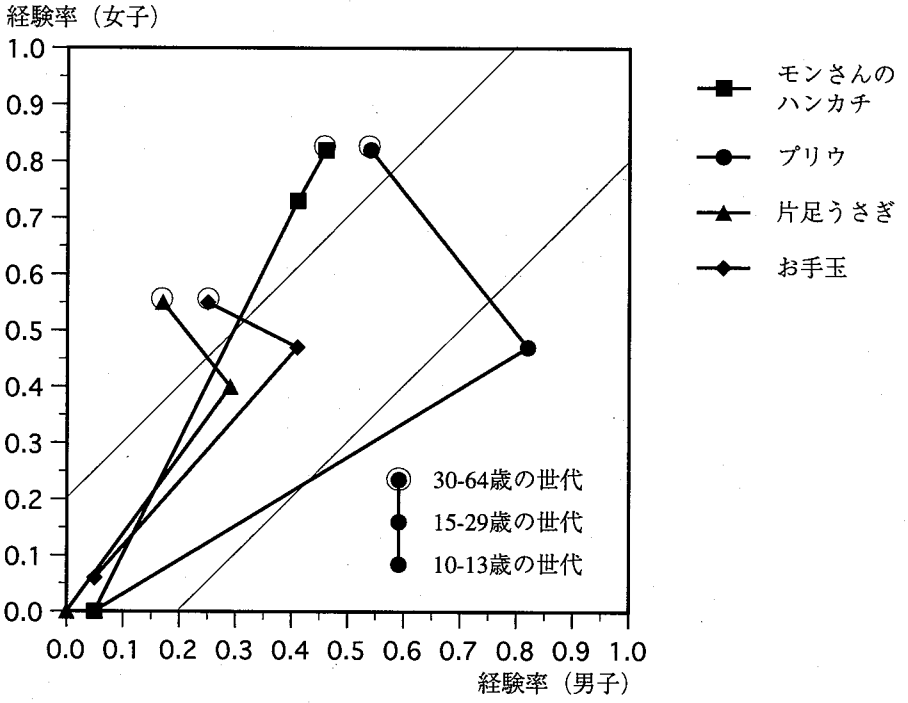

図6　「女型スポーツ」の世代的推移

型スポーツ」に止まる結果となった。「蛇のしっぽ」は「消極型スポーツ」となった。「自転車乗り」と「石蹴り」は15-29歳の世代で女子の経験率が増加して「女型スポーツ」に位置した。しかし,「石蹴り」は10-13歳の世代で男女の大きな経験率の低下で「消極型スポーツ」となったが,「自転車乗り」は再び「男女型スポーツ」に位置した。30-64歳の世代で「男女型スポーツ」に位置した10種目のうち10-13歳の世代で「男女型スポーツ」に位置した種目は,この「自転車乗り」1種目であった。

以上30-64歳の世代を基準にしてスポーツを3つのタイプに分類し,その世代的推移を分析した結果は次のようであった。

①時代とともに「よく遊んだ」と回答するものの数が減少し,ほとんどの種目がいわゆる「消極型スポーツ」に移行した。

②30-64歳の世代で分類されたタイプは固定的ではなく,世代によっては異なるタイプに位置する種目もあった。

③3世代を通じて同じタイプを維持した種目は「男型スポーツ」の「サッカー」と「タクロー」のみであった。

まとめにかえて

本論考はタイ国東北部で収集された伝統スポーツの整理を中心としてタイ国ウボンラーチャターニ県のスポーツインベントリーを作成し,さらにこのインベントリーを調査票として同県で小学校時代を過ごした人々を対象として,そのスポーツ経験を調査して分析を行った。ここではこの論考を進める上で浮かび上がってきた研究上の問題点を整理して,今後の課題を提示する。

まず第一は,伝統スポーツの解釈を巡る問題である。ここで取り扱ったスポーツはタイ国のスポーツであり,資料のほとんどがタイ語で書かれたものである。筆者のタイ語の読解能力に問題のあることは述べるべくもないことであるが,記述された文献から正確にスポーツを把握

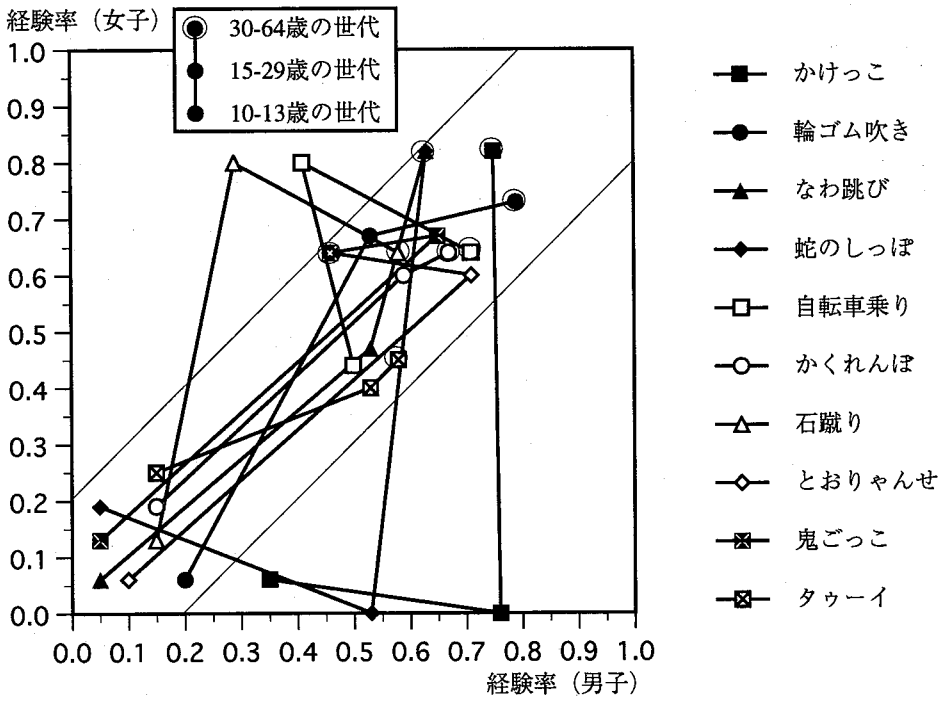

図7　「男女型スポーツ」の世代的推移

することは非常に骨の折れる作業である。文献の中には挿し絵のついた資料などがあって大いに役立った。スポーツの詳細を記述することは容易な作業ではないが，それを再び正確に再現することはそれにもまして困難であると言わざるを得ない。同じ文化的土壌をもたない外国人にとってはなおのことであるけれども，身体文化を正確に記述し伝えることが大変難しいことであるということを思い知らされた。この問題の解決には記述する事に加えて資料を映像として収集することが必要となるであろう。特に，タイ国は伝統スポーツの数多く現存する地域であるので，消失傾向にあるこれら伝統スポーツを映像で残していく作業は急務であると感じる。

また，伝統スポーツというものは，地域によってかなり異なっていることが予想される。伝承文化というものは遊びやスポーツに限らず，伝説や民話においてもその地域特有の呼称やストーリーが存在するもので，よく似てるからといって安易に同じであるとは判断できないものが多い。特に伝統スポーツの名称などは同じ村の中でも時代とともに代わったり，隣の村へ行くとやり方が違っていたりするものである。また，地域が違っていると名前は同じでも全く異なる伝統スポーツである場合すらあると考えるべきであろう。子どもたちに調査をしていると呼び名のない遊びに出くわしたりすることもある。調査の時に注意すべきことは，特定の遊び名を提示したとき，こちらが想像している遊びと聞き手の想像した遊びが違っていることはよくあるということだ。出身地や年齢の違う子どもたちがいれば十人十色で遊びの細部ではまず違っていると考えた方がよいと思われるほどである。その意味では，スポーツインベントリーを作成したとはいっても，現在のところではせいぜい名称と若干の内容が把握できたに過ぎないのであって，今後とも特定された伝統スポーツの中身を十分に検討していく必要がある。

第2の問題点は，インベントリーを用いて調査をするときの問題である。今回の調査では「よく遊んだ」，「少し遊んだ」「遊んだことがない」の3つの選択肢を用意しての調査であったが，「よく遊んだ」と「少し遊んだ」の解釈が難しい。同じ程度遊んでいる仲間であっても違う選択肢を選んでしまう可能性もある。そうした曖昧さを含んだ調査であることを認識すべきである。特に今回の調査では10歳から64歳と非常に幅広い年齢を対象として調査をしたために，頻度の時代差が無理矢理に2つに絞り込まれてしまっていることである。「少し遊んだ」と「よく遊んだ」の違いを決定する基準がおそらく時代的・経済的背景によって異なっていると認識すべきである。

特に今回の調査では気になる点があった。それは10-13歳の世代の値が非常に低かったということである。その理由の第一は，数値が示したとおりスポーツ経験率の減少であるだろうと考えられるが，それ以外の要因ももちろん考慮されるべきだということである。つまり，10-13歳の世代はまさに現役の小学校高学年生であり，それ以外はかつての小学生であって記憶の中の小学生時代に質問しているという事実である。現役の小学生はこの先経験するだろう未来の事柄には答えられないのであり，5年生であれば6年生の時に経験するだろうことは答えられないので，かつての小学生とは条件が異なるということである。また，記憶の中の小学生も問題を含んでいる。そもそも記憶というものは正確でないのが常と考えるべきで，特定スポーツ種目を実施したのが小学生の時だったか中学生の時だったかあまり正確には覚えていないし，答えられないと考えた方が妥当である。もちろんこの調査は正確性に乏しいのであまり意味がないということを述べるつもりはない。むしろこうした方法を採らざるを得ない場合にはそうした曖昧さを含んだ調査結果であることを十分認識して解釈することが必要であるということだ。

今回の調査の意義は，ウボンラーチャターニ

県のスポーツの状況を単に報告したことに止まらないと考えている。ウボンラーチャターニ県の調査はいわばパイロットスタディであって，今後タイ国全土を対象としたスポーツインベントリー作成のためのステップの一つであると考えている。タイ国は地域によって民族が異なっているほか，宗教だけをみてもアミニズム信仰を基底としてヒンズー教や仏教などたような文化的影響を複雑に受けたインドシナ特有の歴史をもった国である。そうした文化的基底の中で伝統スポーツが如何にして誕生し，伝播し，発展していったかを知ることは大変興味深い。この調査から得た事実からいうと近代スポーツがウボンラーチャターニ県に伝播したのは少なくとも1940年以前であると言えそうだが，近代スポーツと伝統スポーツがどのようなせめぎ合いをして今日のようなスポーツの状況を迎えたのか，明らかにされてないことは数多い。

大澤は遊びやスポーツのような人間集団に認められしかも伝播する性質を持った文化の空間的把握には疫学的用語（概念）の援用が有効であるとしている[7]。つまり，ある特定の地方に特有のスポーツとしての［endemic sport］，流行してある程度の広まりを果たした［epidemic sport］，さらに全世界的拡大を遂げた「pandemic sport］というスポーツの空間的拡大概念である。この概念で考えるならば近代スポーツはまさに［pandemic sport］であり，タイ国全土に広がっている伝統スポーツは［epidemic sport］である。タイ国文部省体育局の「伝統スポーツ事典」の前書きには「船競争」，「ガビーガボン」，「タクロー」，「凧上げ」，「ムアイタイ」などはタイ国固有の伝統スポーツであり，広く全国に普及し，今日もなお盛んに行われている[2]と書かれてある。こうしたスポーツはかつてはある地方の伝統的スポーツ（endemic sport）であったが，全国に伝播して今日の［epidemic sport］となった。そして「タクロー」はマレーシアの「セパッラガ」と結合して近代スポーツの「セパッタクロー」に発展した。つまり「タクロー」は「endemic sport」から「pandemic sport」へと発展し，今まさに「pandemic sport」へと更なる発展のチャンスを迎えている。また，本論考で明らかとなった最大の事実は，タイの伝統スポーツは時代とともに実施されなくなってきたということである。おそらく伝統スポーツの多くは遠くない将来に消失していくことが予想される。結論を急ぐべきではないが「pandemic sport」である「近代スポーツ」が「endemic sport」である「伝統スポーツ」を駆逐しているという仮説も十分に考えられるところである。今後はこうしたタイ国におけるスポーツのダイナミックな変容を解明すべく，タイ国におけるスポーツの分布を把握するスポーツ地図の作成を試みながら，一方で疫学的なスポーツ理解を射程に入れつつ検討していくことも必要ではなかろうか。

注釈

1）1982年版にはその経緯が詳細に記載されていない。
2）実施経験者の年齢と証言から推察したものと思われる。
3）なお，これらのスポーツの具体的資料では，出版を計画しているのでそれを参照されたい。
4）標本全体について散布図を用いた分析を行ったところほぼ同様の結果に分類されたが，30-64歳の世代の方が顕著な結果を得たのでこれを用いた。

文献

1）Andersons, W. W. (1980), Children's Play and Games in Rural Thailand : A Study in Enculturation and Socialization, Chulalongkorn University
2）กรมพลศึกษา กระทรวงศึกษาธิการ (1982), ปทานุกรมกีฬาพื้นเมือง, อักษรเจริญทัศน์(Department of Physical Education Minintry of Education (1982), Cyclopedia of Traditional Sports, Aksarcareonthatn)
3）ชัชชัย โกมารทัต, ฟอง เกิดแก้ว, ประพัฒน์ ลักษณพิสุทธิ์ (1984), กีฬาพื้นเมืองไทย ศึกษาและวิเคราะห์คุณค่าทางด้านพลศึกษา, จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย(Gomaratut, C., Kerdkeaw, F., Laksanapisut, P. (1984), Thai Traditional Sports : A Study and Analisis of Physical Education,

Chulalongkorn University)
4）石井米雄・吉川利治編（1993），タイの事典，同朋舎出版，51
5）小稲義男編（1980），新英和大事典第5版，研究社，1619-1620
6）Office of National Commitee on Culture Ministry of Education (1980), Thai Traditional Games and Sports, Charernphol
7）大澤清二（1990），風土と遊びと体力，体育の科学 40：7，533-537
8）Public Relation Department (1986), Thai Games and Festivals, Public Relation Department Publication
9）ชัย เรืองศิลป์ (1988), การละเล่นของเด็กไทย, ต้นอ้อ (Ruangsilp, C. (1988), Play and Games of Thai Children, Tonoh)
10）佐川哲也・大澤清二（1991），タイ国ウボン県における子どもの伝統遊びの消失とスポーツの普及，体育学研究 36：3，209-218
11）冨田竹二郎(1987)，タイ日事典，養徳社，1618-1620
12）Umjuntorn, O. (1982)』 Characteristics of Thai Folk Games, Chulalongkorn University,（タイ語）
13）ทวี วัดงาม (1994) การละเล่นของเด็กไทย, ปัญญาสยาม (Wadgarm, T. (1994), Play and Games of Thai Children, Pannasiam)